

# 台風第21号の接近に伴う農作物等の管理対策

平成29年10月20日  
新潟県農林水産部

平成29年10月20日 9時50分に気象庁から発表された台風第21号の「5日進路予報」によると、台風第21号は、23日から24日にかけて本県に最も接近する見込みです。  
今後発表される気象情報に注意し、農作物等の適切な管理に努めてください。  
また、台風により荒天となった場合は、安全確保のためほ場や水路等の見回りは行わないようにしてください。

## 1 園芸全般

### 【事前対策】

- (1) 強風が予想される場合は、収穫期を迎えた園芸作物（ねぎ、なす等野菜、果樹、ユリ切り花）は、可能な限り収穫する。
- (2) 樹園地や施設の防風網、支柱・支線及び誘引結束、ほ場のマルチ等を点検・補強する。
- (3) ハウス、雨よけなど施設では、ビニール類を強風から保護するため、マイカー線の点検・補強、らせん杭等の固定状況の確認を行うとともに、換気扇や天窓が強風で飛ばされないよう補強する。また、ハウス被覆資材のばたつきを防ぐため、台風通過中は施設を密閉し換気扇を稼働させる。
- (4) 大雨が予想される場合は、長時間の滞水を避けるため、ほ場内及び周辺の溝切り等排水対策を徹底する。

### 【事後対策】

- (1) 倒伏した作物で回復が見込まれるものは速やかに引き起こし、土寄せ、かん水する。
- (2) 強風で傷んだ茎葉は病気の感染源となるため、除去し薬剤散布する。
- (3) 葉ズレ、枝ズレ等で障害が発生した場合は、収穫物の選果・選別に留意する。
- (4) 施設、支柱・支線、誘引結束等を点検し、破損か所は速やかに補修する。
- (5) ほ場内の停滞水は根腐れ等の原因となるため、速やかに排水する。

## 2 果 樹

### 【事前対策】

- (1) かきは、落果、枝・葉ずれによる果実の品質低下及び倒木等を防ぐため、補強用の支柱にマイカ線やロープ等で枝をしっかりと結束・固定する。
- (2) レクチエの収穫が間に合わない場合は、棚揺れによる落果を防ぐため、ほ場周囲だけでなく、棚下に防風網を設置するとともにアンカー等を設置し、棚面を固定する。
- (3) 潮風が吹いた場合は、散水による塩分の洗い流しが有効なので、事前に散水粒子の大きい鉄砲ノズルやスプリンクラー散水の準備をしておく。
- (4) 大雨が予想される場合は、暗きよを点検するとともに、園内に明きよを設置して排水対策を徹底する。

#### 【事後対策】

- (1) 主枝分岐部等の太枝が裂開した場合は、被害程度に応じて切除するかボルト等で接合し、保護剤を塗布する。
- (2) 倒伏した樹を引き起こす場合は、残った根を傷めないよう慎重に作業を行う。また、断根の程度に応じて地上部を切りつめる。
- (3) 強風や潮風により落葉が著しい場合は、樹体保護のため速やかに収穫する。
- (4) 出荷できない果実は園内に放置せず、適切に処分する。
- (5) 潮風が吹いた場合は、直ちに茎葉へ散水を実施する。

### 3 野菜

#### 【事前対策】

- (1) ねぎは、収穫に至らないほ場では、倒伏及び茎折れを防ぐため、土寄せを行う。
- (2) 砂丘地で降雨が見込まれない場合は、スプリンクラーによる散水を実施し、飛砂の防止を図る。
- (3) 定植期を迎えている品目（たまねぎ・にんにく・そらまめ等）は、風雨による苗の損傷を防ぐため、台風通過後に作業を行う。
- (4) 露地で育苗中のものは、葉の損傷を防ぐため、べたがけ資材を被覆する。

#### 【事後対策】

- (1) ねぎの倒伏が見られる場合は、曲がり防止するため、早急に起こして株もとを土で押さえる。茎葉の損傷等が大きく、草勢が低下し、前回の追肥施用以降15日以上経過している場合は、速効性肥料を追肥する。
- (2) アスパラガスが倒伏した場合は、速やかに支柱に誘引し、薬剤散布を実施する。
- (3) 砂丘地で降雨がなく潮風が吹いた場合は、風が弱まり次第、速やかにスプリンクラーでかん水する。
- (4) 定植予定だった苗で老化が懸念されるものは、液肥を施用してから定植する。
- (5) 露地ほ場において、風雨により土壌表面が固くなった場合や長期間の停滞水が見られた場合は、土壌中に空気を入れるため、土壌表面を軽く中耕する。
- (6) 施設野菜等で雨水が施設内に浸水した場合は、十分に換気を行い、土壌の乾燥を図る。また、マルチ内が過湿状態の場合は、一時的にマルチの裾をめくり乾燥を促す。

### 4 花き

#### 【事前対策】

- (1) 露地切り花では、強風による茎葉のスレを防止するため、必要に応じてネットを下げる。また、雨よけ施設ではビニールや遮光資材を外しておく。
- (2) 施設切り花や鉢物で、温度上昇が予想される場合は、ほ場・鉢土の乾燥防止のため、朝夕の涼しい時間帯に十分にかん水する。

#### 【事後対策】

- (1) 倒伏した株は、茎や花穂の曲がり防止のため、早急に立て直す。
- (2) 切り花、鉢物では、折損した茎葉の整理を行い、適切な薬剤散布等により病害の発生防止に努める。
- (3) ほ場が冠水・浸水した場合は、ほ場の排水に努めるとともに、泥等で茎葉が汚れた場合は、速やかに散水し汚れを落とす。

- (4) 施設が被災した場合は、速やかに作動点検を行う。特に、キク等の栽培に係る電照・補光関連装備（電球、タイマー等）は、作動点検及び修理を急ぐ。

## 5 大豆

### 【事前対策】

今後の収穫作業に支障がないように、排水路及びほ場内の排水溝を点検・整備する。

### 【事後対策】

- (1) ほ場内に停滞水が生じると収穫作業の支障となるため、迅速な排水に努める。
- (2) 大豆の莢が損傷を受けた場合は、腐敗粒が発生しやすいので、刈り遅れないよう注意する。

## 6 水稲

### 【事前対策】

収穫が終わっていないほ場は、可能な限り収穫する。

### 【事後対策】

- (1) 倒伏している場合は、穂発芽しやすいので速やかに排水するとともに、晴れ間を逃さず収穫を行う。
- (2) 収穫時の籾水分が高い場合は、収穫後速やかに乾燥機に張り込む。ただし、急激な乾燥は避ける。

## 7 そば

### 【事前対策】

強風による脱粒や倒伏に伴う収穫ロスの増加により大きく減収することが予想されるため、成熟期（黒化率70～80%）に達したほ場では、台風の前に可能な限り収穫する。

### 【事後対策】

ほ場に停滞水が生じると収穫作業の支障となるため、迅速な排水に努める。

## 8 大麦

### 【事前対策】

は種作業及びは種後の生育に影響がないように、排水路及びほ場内の排水溝を点検・整備する。

### 【事後対策】

- (1) ほ場内に停滞水が生じたら、迅速な排水に努める。
- (2) 土壌水分が高く、は種時に土壌を練ることが予想される場合は、無理にドリル播きを行わず全面表面播きに切り替える。
- (3) 大雨による湿害や肥料の流亡により黄化の兆候がみられた場合は、速やかに10a当たり窒素成分で1～2kgを追肥する。なお、停滞水が生じている場合は、排水溝の補修などにより排水を行った後に追肥を行う。

## 9 畜産

### 【事前対策】

- (1) あらかじめ停電や断水等を想定し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却、

- ウインドレス畜舎の換気等について、早急に対応できるよう準備、点検を行う。
- (2) 畜舎への雨水の浸水を防ぐとともに、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
  - (3) 畜舎への浸水等により家畜への被害が生じるおそれがある場合には、事前に避難場所を確認し、状況に応じて家畜を避難させる等の適切な処置を行う。
  - (4) ほ場から搬出していない牧草等のロールベールは、水はけの良い場所に搬出し、縦置きにする。
  - (5) 畜舎の破損を防ぐため窓や扉等は確実に閉じるとともに、必要に応じて補強する。特にハウス畜舎等簡易な施設は風の被害を受けやすいため、補強を確実にを行う。
  - (6) 放牧中の牛は安全な施設、場所に避難させる。

#### 【事後対策】

- (1) 気温の変動等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。
- (2) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作動点検を行う。
- (3) 施設等の破損があった場合は、必要に応じて家畜を安全な場所に移動させる。また、速やかに修繕し、家畜の安全な飼養環境を確保する。
- (4) 畜舎の破損により雨水等の浸水があった場合は、速やかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を行う。特に、搾乳機器は十分な点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。
- (5) 冠水や浸水等の被害を受けた採草地等は、速やかな排水に努める。

## 10 きのこと

#### 【事前対策】

- (1) あらかじめ、施設や栽培状況を把握し、想定される被害に対して、早急に対応できるよう準備、点検を行う。
- (2) 大雨が予想される場合は、施設等への雨水の浸水を防ぐとともに、資材類を安全な場所に移動する。
- (3) フェーンが予想される場合は、散水・空調等で温度管理に努めるとともに、品質低下前の早期収穫に努め、収穫後は保冷库等で保管する。
- (4) ハウス、雨よけ等施設の戸締まり・点検を十分に行い、損壊等が生じないように保護・補強に努める。また、屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆等の適切な管理を行い、移動が可能な資材については屋内に移動させる。

#### 【事後対策】

- (1) 施設に被害があった場合は、速やかに復旧し、きのこの生育環境を確保する。
- (2) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作業点検を行う。
- (3) 浸水した施設の電気設備は、起動前に十分な点検を行い、漏電事故が発生しないよう注意する。
- (4) 浸水した培養・発生・生育物は速やかに施設外へ搬出し処分する。
- (5) 浸水した施設は、施設内を空にして水で泥等を洗浄し、残留性のない薬剤で除菌する。

## 11 漁業全般

### 【事前対策】

- (1) 出港前に確実に気象情報等を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心掛け、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲等に近づかないようにして、早めの帰港を心掛ける。
- (4) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

### 【事後対策】

係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、十分な安全を確保してから実施する。